

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立岡本西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	94人	算数	94人	理科	94人
第5学年	国語	96人	算数	95人	理科	96人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

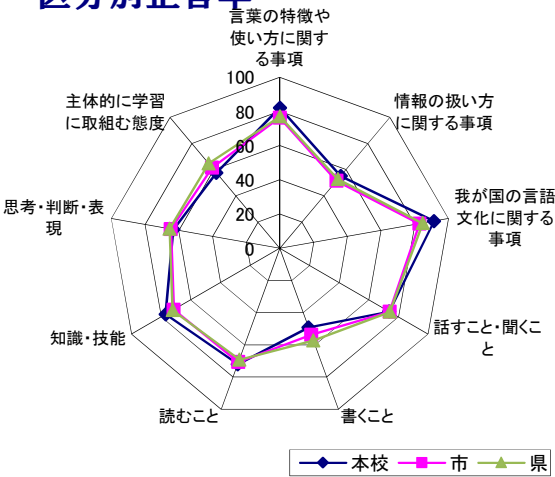
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.2	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	55.3	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	91.5	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	73.8	74.1	74.2
	書くこと	49.1	53.7	57.2
	読むこと	72.0	70.7	69.2
観点	知識・技能	77.1	71.6	72.3
	思考・判断・表現	63.2	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	57.7	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

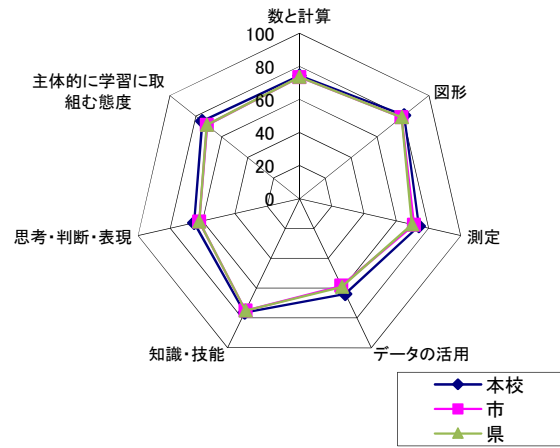
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は82.2%であり、県平均より5.2ポイント、市平均より5.8ポイント上回っている。 ○既習の漢字の読み書きがよくできている。ローマ字の表記に関しても県平均を大きく上回っている。 ●県平均を上回っているものの、主語と述語についてやや課題が見られる。	・様々な文章で主語・述語の関係を捉えられるよう、授業や家庭学習で繰り返し取り組んでいく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は55.3%であり、県平均より2.6ポイント、市平均より3.8ポイント上回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、考えとその理由との関係を明確にして記述することがよくできている。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することに課題が見られる。	・授業において国語辞典を活用してきた結果、成果が見られた。今後も国語辞典を積極的に活用し、辞書の使い方を理解して使うことができるようにする。 ・文の中からキーワードを見つけたり、中心となる文に線を引くなどして書かれている情報の役目を考えることができるようにする。考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報の関係を捉えて理解することができるように指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は91.5%であり、県平均より6.8ポイント、市平均より8.7ポイント上回っている。 ○漢字のへんやつくりについてよく理解している。	・授業において漢字辞典を活用してきたことの成果が表れていると考えられる。今後も積極的に活用し、部首から漢字を調べたり、漢字の読み方を推測したりする活動を取り入れていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は73.8%であり、県平均より0.4ポイント、市平均より0.3ポイント下回っている。 ○相手に伝わるように、自分の考えを、理由を挙げながら話す設問(記述)について理解している。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えることに課題が見られる。	・授業や朝のスピーチ、校長講話等学校生活で話を聞く場面において、大事な言葉や話の中心は何か等を考えながら聞くよう指導したり、話の後にどんな内容だったか確認したりして、相手が何を伝えたいのか意識しながら聞く態度を身に付けられるようにする。
書くこと	平均正答率は49.1%であり、県平均より8.1ポイント、市平均より4.6ポイント下回っている。 ●下回った理由としては、問題数が多くて最後まで解けない場合と問題の意味が理解できずに記述できない場合の両方が考えられる。 ●指定された条件で文章を書くことに課題が見られる。	・条件に合わせて文章を書いたり、段落を分けるときは1マス空けるなどの文章のきまりを確認したりする必要がある。そのために、よい例は随時紹介したり、視写したりして書くことに抵抗をなくしていけるようにする。
読むこと	平均正答率は72.0%であり、県平均より2.8ポイント、市平均より1.3ポイント上回っている。 ○説明文の内容を読み取る設問では、叙述を基に段落の内容を捉えることができている。 ●物語文の内容を読み取る設問では、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することに課題が見られる。	・物語文を読んで考えたことを伝え合う学習において、叙述に即して考えられるようにするために、中心人物の気持ちの変化を考えるとときに、どの叙述からそうした考えをもったのかということを意識しながら考えられるようにする。

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	74.4	73.5	73.6
	図形	80.9	79.0	79.1
	測定	74.0	71.1	69.8
	データの活用	63.8	58.4	59.2
観点	知識・技能	76.4	75.0	75.0
	思考・判断・表現	65.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	75.2	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

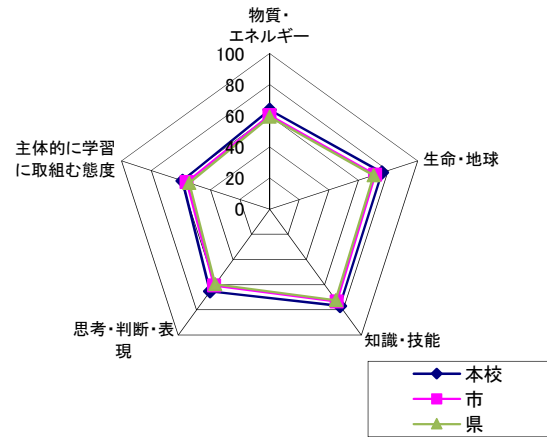
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率が74.4%であり、県平均より0.8ポイント、市平均より0.9ポイント高くなっている。 ○口を使った文章問題を図で捉える設問では、平均正答率が81.9%で、市平均よりも6.7ポイント高い。また、口を使った式で表す設問では、平均正答率が73.4%で、市平均よりも7.2ポイント高い。日頃から、式の構造を図や言葉で捉える考え方が定着していると考えられる。 ●分数の数直線上での表し方について理解しているかの設問では、平均正答率が61.7%で、県平均よりも8.7ポイント低く、市平均からは7ポイント低い。分数の大きさの概念の理解を図っていきたい。また、かけ算の筆算の構造を捉える問題では、平均正答率が38.3%であり、県の平均とほぼ同じで、市の平均よりも2.8ポイント高いものの、正答率が低い値であった。かけ算の筆算の構造の意味の理解が不十分であると考えられる。	・問題をよく読み、問題場面を図や数直線で表すなど、工夫して問題の内容を捉えることを定着させていく。 ・計算練習の中でも、式の構造の意味や仕組みを正しく捉えていくことを意識させる授業の工夫を行い、確実に身に付けられるようにしていく。
図形	平均正答率が80.9%であり、県平均よりも1.8ポイント、市平均よりも1.9ポイント高い。 ○正三角形を作図する設問では、92.6%で、市平均より4.5ポイント高くなっている。用具を正しく用いて作図することができていると考えられる。 ●球の半径から、球が1つ入った箱の辺の長さを求める設問では、71.3%と、県平均の73.2%や、市平均の71.8%とほぼ同等の数値になっている。しかし、3割近くの児童が正しく回答できていない。円の半径や直径の関係についての理解が十分ではないと考えられる。	・今後も用具を正しく使い、正確かつ丁寧に作図をすることを意識させていく。 ・半径や直径の測り方を確認した上で、問題を正しく読み取り、多角的なものの見方ができるような指導をしていく。
測定	平均正答率は74.0%であり、県の平均より4.2ポイント高く、市の平均より2.9ポイント高い。 ○道のりの意味を理解しているかについての設問では、90.4%で、市平均よりも3.0ポイント上回った。ここから、ほとんどの児童が距離と道のりの意味や、違いが理解できていると考えられる。 ●はかりを使って正しく重さを読み取る設問では、61.7%と、正答率が低かった。日頃から、細かい目盛りを読み取る機会が少なく、目盛りの見方の定着が十分ではないと考えられる。	・日常生活と結び付けながら、重さや距離の単位の間接的理解ができるような授業を意識して行っていく。 ・児童が実際にはかりや数直線などを使う機会を増やし、その使い方や読み取り方の定着を図る。

データの活用	平均正答率は63.8%であり、県平均を4.6ポイント、市平均を5.4ポイント上回っている。 ○棒グラフの1目盛りの大きさに着目して、間違いを指摘する設問においては、平均正答率が71.3%で、市平均を10.0ポイント上回っている。問題場面のグラフの読み取りができています。 ●複数の棒グラフを組み合わせでグラフを正しく読み取る設問では、平均正答率が63.8%で、市平均を7.4ポイント上回った。複数のデータから必要なデータを選んで比較することに課題が見られる。	・グラフを用いる学習の際に、グラフの縦軸、横軸が何を表しているか、1目盛りがいくつを表しているかなどのグラフの読み取り方を確認し、定着を図っていく。 ・グラフを描く活動ばかりでなく、読み取ったデータを考察する活動を取り入れる。 ・社会や理科などの学習でも、グラフを用いて数値を比べたり、数値の差を出したりすることで、グラフの活用を意識していく。
--------	--	---

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.7	60.2	59.2
	生命・地球	75.9	71.3	70.3
観点	知識・技能	76.8	73.4	72.3
	思考・判断・表現	65.2	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	58.9	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は63.7%であり、県平均より4.5ポイント、市平均より3.5ポイント上回っている。 ○ゴムの働きについての設問では、県の平均を大きく上回った。ゴムを長く伸ばすほど物を動かす働きが大きいことを理解している。 ●磁石の性質についての設問では、県の平均を7.4ポイント下回った。磁石につくのは金属ではなく鉄であるということの理解が十分ではなく、磁石につく物とつかない物の理解が不十分であった。 ●物の重さについて、実験の結果から、容量の大きい飲料の容器にプラスチックが使われている理由を説明する設問に課題が見られる。	・電気を通すもの、通さないものと磁石につく物、つかない物が混同していることが考えられる。性質の違いを比較しながら、実物を使って理解へとつなげていく。 ・自分の言葉で説明することに抵抗がある児童も見られるため、キーワードを提示したり、はじめはパターン化させたり、時には他の児童の良い例を紹介したりして書くことに慣れさせていく必要がある。 ・実験結果を比較して、考察を記述することに課題が見られる。今後、実験の結果から考察をノートに書く時間を十分に取って、自分の言葉を使って説明する活動を多く取り入れていく。
生命・地球	平均正答率は75.9%であり、県平均より5.6ポイント、市平均より4.6ポイント上回っている。 ○植物の育ち方についての設問では、いずれの問題でも平均正答率が県の平均を上回っていた。特にハウセンカの子葉や根の様子については、十分理解していることがうかがえる。 ●昆虫の育ち方の中で、モンシロチョウの成虫がキャベツの葉に卵を産む理由を説明する設問では、課題が見られる。	・植物の育ち方については、観察の時間を十分に設け、観察カードに記録させていたことが十分な理解へとつながっていたと考え、引き続き継続していく。 ・昆虫の育ち方では、なぜこの場所に住むのか、なぜここに卵を産むのかなど、授業の中で児童に意味や理由を考えさせる時間を作っていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」という質問への肯定的回答率は95.7%と、県の平均を2.1ポイント、市平均を1.0ポイント上回っている。この姿勢が、学習内容の確実な定着につながっていると考えられる。

○「宿題はやりたくなる内容だ」という質問への肯定的回答率は69.2%と、県の平均を5.7ポイント、市平均を3.8ポイント上回っている。宿題の内容が児童の実態に合っていたり、児童の興味を引く内容になっていたりしていると考えられる。

○「学習で身につけたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」という質問への肯定的回答率は97.8%で、県の平均を5.6ポイント、市平均2.7ポイント上回っている。宮・未来キャリア教育で行っている「宮・未来キャリア・パスポート」などを活用した学習の効果が現れていると考えられる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」という質問への肯定的回答率は47.9%で、県の平均より4.5ポイント、市の平均より4.2ポイント下回っている。発表することへの自信を付けることができるよう、授業で機会を多く持つようにしていく。

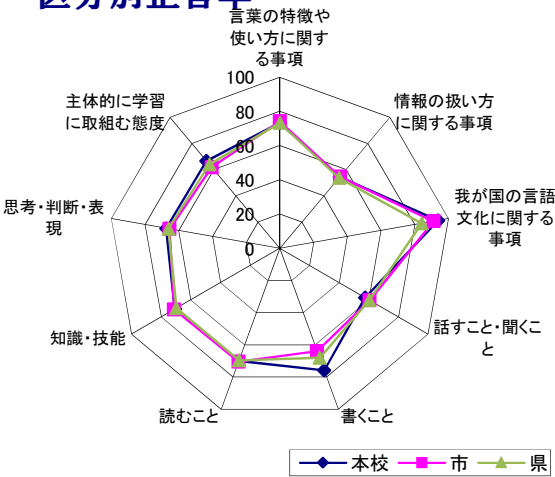
●「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」という質問の肯定回答率は66.0%で、県と市の平均よりともに7.2ポイント下回っている。分からないことがある時には気軽に質問できる環境を作っていく。

●「早ね、早起き心がけている」という質問の肯定回答率は69.1%で、県の平均より6.9ポイント、市の平均より8.1ポイント下回っている。学校の各種たよりなどを基に、家庭への啓発を行っていく。

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	73.4	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	54.5	54.7	53.8
	我が国の言語文化にに関する事項	93.8	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	57.5	60.6	60.4
	書くこと	75.8	63.8	68.0
観点	読むこと	70.0	70.4	69.6
	知識・技能	70.8	71.3	69.9
	思考・判断・表現	67.4	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.7	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

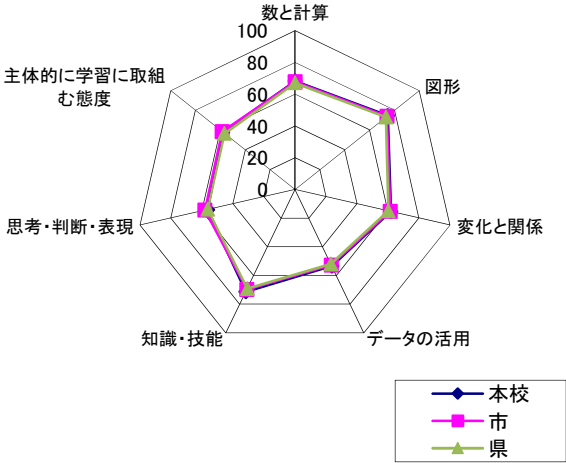
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は73.4%であり、県平均より0.1ポイント上回り、市平均より0.8ポイント下回っている。 ○既習の漢字の読みは県平均とほぼ同じである。 ●既習の漢字の書きとりに課題が見られる。	・朝の活動や家庭学習などにおいてドリルなどを活用しながら継続して漢字練習を行う。漢字を練習する際に、その漢字を使った熟語や短文作りなども行い、使い方を覚えられるようにする。 ・日常的に漢字を練習するとともに、定期的に漢字のまとめテストを行うなど、繰り返し練習することで習熟を図る。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は54.5%であり、県平均より0.7ポイント上回り、市平均より0.2ポイント下回っている。 ○情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉えることがよくできている。 ●情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げて話す問題において課題が見られる。	・授業において国語辞典を活用してきた。今後、漢字辞書も児童の身近に置き、授業において国語辞典や漢字辞典の活用を図る。 ・中心となる文や語を見付けて線を引くなどし、段落のまとまりの内容を理解して、考えとその理由や事例など役割を考えて情報と情報の関係を理解することができるようになる。 ・キーワードを丸で囲んだり線でつないだりして図示することにより情報を整理して思考をまとめる活動を取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は93.8%であり、県平均より9.6ポイント、市平均より2.6ポイント上回っている。 ○ことわざの意味と正しい使い方を答える問題において、よく理解している。	・ことわざの意味と使い方については、言葉を組み合わせることわざを正しく完成させる活動や、ことわざを調べて「ことわざ辞典」を作成したり、例文を作ったりする活動を取り入れてことわざに親しめるようにする。また、言語に関する自主学習の紹介や読書の時間の充実など言語文化に親しむ習慣を継続していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は57.5%であり、県平均より2.9ポイント、市平均より3.1ポイント下回っている。 ○話し手が伝えたい中心を捉える問題においてよく理解している。 ●司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して考えをまとめることについて課題が見られる。	・国語の授業を中心に話し合いの機会を意図的に設定し、司会進行の仕方や役割を教科書の例を参考にしながら確認させるとともに、学級活動での司会の経験を増やしていく。
書くこと	平均正答率は75.8%であり、県平均より7.8ポイント、市平均より12ポイント上回っている。 ○段落の役割について理解し、指定された長さで文章を書くことがよくできている。 ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして文章を書くことができています。	・前後の文とのつながりを意識し、主旨に合った内容を的確に書くという活動を取り入れる。さらに、朝の学習で取り入れている視写や家庭学習における作文が日常化し、書くことに抵抗感なく取り組んでいるので、今後も継続して指導していく。

読むこと	平均正答率は70.0%であり、県平均より0.4ポイント上回り、市平均より0.4ポイント下回っている。 ○説明文の内容を読み取る設問では、叙述を基に段落の内容や段落相互の関係を捉えることができる。 ●物語文の内容を読み取る設問では、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することに課題が見られる。	・読書活動の充実と推進を図るとともに、物語文の学習では、人物や場面の変化を丁寧に読み取ったり、自分と対比して読んだりしながら、読み深める活動を取り入れていく。 ・説明文の学習では、段落構成や筆者の考えを意識させ、文章の内容を的確に読み取れるよう工夫する。
------	---	---

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	68.2	67.8	67.0
	図形	74.6	73.9	73.1
	変化と関係	61.8	61.4	60.2
	データの活用	53.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	71.3	69.7	69.2
	思考・判断・表現	56.4	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	58.0	58.5	56.7



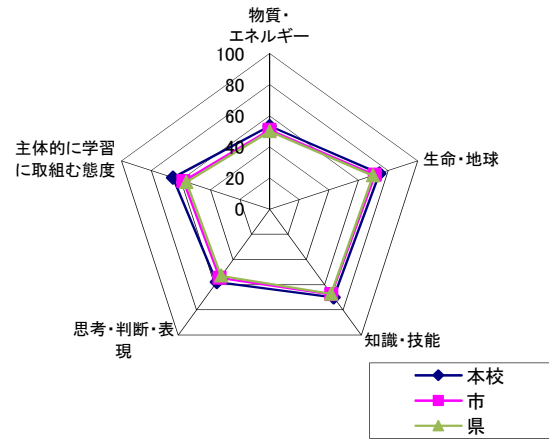
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は68.2%と市の平均より0.4ポイント、県の平均より1.2ポイント上回った。 ○小数のしくみについてはよく理解できている。授業における宮っ子ステップアップシートの活用や、家庭学習において繰り返し計算練習をしてきた成果であると考えられる。 ●数の相対的な大きさについての理解に課題が見られた。 ●概数に対応する数の範囲の理解に課題が見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・今後も継続して宮っ子ステップアップシートを活用したり、繰り返し計算練習に取り組んでいく。 ・概数については、繰り返し問題に慣れさせることで理解を図れるようにするとともに、日常生活で使われている概数に目を向けながら、理解を促していけるようにしていく。
図形	平均正答率は74.6%と市の平均より0.7ポイント、県の平均より1.5ポイント上回った。 ○長方形の面積を求める設問は正答率が高かった。 ○四角形の辺の長さの性質についての設問は、市の平均を上回っている。 ●千円札のおよその面積を求める設問の正答率が低かった。	・身近なものの大きさについての感覚を普段から授業で取り入れ定着させるようにしていく。 ・具体的な操作活動を通して、図形を構成する要素や位置関係についてのイメージをもたせるようにしていく。
変化と関係	平均正答率は61.8%と市の平均より0.4ポイント、県の平均より1.6ポイント上回った。 ○伴って変わる2つの数量の一方の値からもう一方の値を求める設問の正答率が市平均より高い。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表す設問には課題が残った。	・2つの数量の関係を表す表から2つの数量の関係を見つめられるように、多くの設問に取り組ませるようにする。 ・ある数量を□・○・△に表すことができるようにするために、数字を□・○・△に当てはめたり、言葉の式に表す設問に多く取り組ませたりする。
データの活用	平均正答率は53.4%と市の平均より0.7ポイント、県の平均より1.3ポイント上回った。 ○折れ線グラフを読み取る設問の正答率が高い。 ○二次元表を読み取る設問の正答率は市平均より高い。 ●2つの折れ線グラフを読み取りそれを根拠に理由を説明する設問には課題が残った。	・授業の中で学び合いの場を多く取り入れ、言語活動を充実させていく。 ・友達の意見をよく聞いて自分の考えとの相違点を明らかにしていく活動を多く取り入れる。

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	53.4	50.8	50.0
	生命・地球	74.2	71.1	69.8
観点	知識・技能	70.0	67.6	67.2
	思考・判断・表現	57.8	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	65.2	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は53.4%と、県の平均正答率より3.4ポイント、市の平均より2.6ポイント高い。 ○電流の流れについて乾電池のつなぎ方を答える問題では、県の平均正答率よりも13.5ポイント高く、正しく直列つなぎと答えることができています。また、物の体積と温度の問題においても、県の平均正答率より、12.3ポイント高く、空気と水の体積変化の違いについてよく理解している。実験を通して、電池の直列つなぎと並列つなぎや、水と空気の体積変化を比較して違いを理解することができたからではないかと考える。 ●水を冷やしたときの温度変化についての問題においては県の平均正答率より6.8ポイント低く、正しいグラフの形に似ているものを選んでしまい、凝固点が0度であることを捉えることやグラフを読み取ることに課題が見られた。また、物の温まり方についての問題では、県の平均正答率よりも6.7ポイント低く、予想が正しいとした場合に得られる結果を推測することに課題が見られた。	・水のすがたの変化については、実験の結果を目で見て確認することに加えて、数値を折れ線グラフに表し、温度変化の仕方を考察する活動を充実させていく。 ・実験をする際に予想を立てて結果がどうなるか予測してから実験したり、実験結果について考察し、自分の言葉で実験から分かったことをまとめたりして、思考力や表現力を高める指導をしていく。
生命・地球	平均正答率は74.2%であり、県の平均より4.4ポイント、市の平均正答率より3.1ポイント高い。 ○1年間の昆虫の様子を問う問題においては県の平均正答率よりも15.1ポイント高く、昆虫の季節ごとの成長について理解している。自然に多く触れ、年間を通して観察を継続したことにより、生き物の季節ごとの変化についてよく理解できたと考えられる。また、天気の様子と気温の問題においては、県の平均正答率よりも13.0ポイント高く、一日の気温の変化のグラフから晴れの日を判断し、その理由を記述することができている。 ●満月の一日の動きについての問題では、県の平均正答率よりも4.5ポイント低かった。月は一日の動きとともに形を変えて見え始める時刻が異なり、観察が難しいため、月の形の変化は理解できているが、動く方角についての理解が不十分であった。	・1年間の植物や動物の変化については、学校ビオトープなどを活用し、総合的な学習の時間と連携しながら、引き続き年間を通して観察する体験を充実させていく。 ・今後も、観察の結果をグラフに表し、グラフを読み取って比較するなどして変化の違いに気付けるようにし、自然現象と関連付けて文章で記述する活動を行っていく。 ・月の動きについては、実際に観察することに加えて、模型やICTの活用をするなどし、理解が深まるようにする。

宇都宮市立岡本西小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」という質問への肯定的回答率は70.5%と、県の平均を21.6ポイント、市平均を22.5ポイント上回っている。学校全体で「岡本西小授業スタンダード」を用いて振り返りの視点を示し、継続して振り返りを行ってきたことが、成果として表れていると考えられる。

○「ものごとを最後までやりとげて、うれしかったことがある」という質問への肯定的回答率は80%と、県の平均を7.9ポイント、市平均を5.4ポイント上回っている。これからも学習や学校生活において、達成感を味わわせるような活動を取り入れていく。

○「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている」という質問への肯定的回答率は36.8%と、県の平均を7.9ポイント、市平均を7.3ポイント上回っている。一人一冊辞書を用い、普段から学習の中で活用していることがうかがえる。学習の様々な場面で分からない言葉を辞書で調べる習慣をより一層つけていく。

●「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」という質問への肯定的回答率は、18.9%と、県の平均を13.8ポイント、市平均を14.1ポイントと、下回っている。家庭学習をしている児童は9割を超えているものの、自分に合った勉強のやり方がまだ分かっていない児童もいると考えられる。家庭学習の仕方について、今後も指導を行ってきたい。

●「グループなどでの話し合いに、自分から進んで参加している」という質問への肯定的回答は、28.4%と、県・市平均共に13.1ポイント下回っている。コロナ禍で、グループでの話し合い活動の機会が減っているためにこのような結果になったと考えられる。今後は、状況を見て小集団での話し合い活動を行っていく。

宇都宮市立岡本西小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業におけるめあてと振り返りの充実	全ての学年で、児童が考えためあてを提示し、授業の終末でまとめを板書している。「今日の授業を振り返ろう」を参考に振り返りをノートに書く活動を実施している。	授業の中で、めあてが示されているかを問う項目では、4・5年生ともに県平均や市平均を下回った。一方、授業を振り返る活動については4・5年生ともに県平均や市平均を10ポイント程度上回っている。毎時間の積み上げにより成果を挙げている。4年生においては、ノートに学習のめあてとまとめを書く項目で県や市の平均を上回った。
豊かに表現する児童の育成	児童同士の関わり合いを大切にしたい対話のある活動の設定の工夫に取り組んでいる。児童が思考し、自分の考えを書いたり説明したりする力を育てるための指導を行っている。	4・5年生とも授業で友達と話し合う活動については8割を下回っている。5年生では、「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の肯定的回答率が8割と県や市の平均を上回った。4年生では「友達と話し合うとき、「友達の話や意見を最後まで聞くことができている」が94.6%と高く、県や市の平均を上回った。国語の文章を書く問題では学年差があるが、5年生では75.8%と県平均を7.8ポイント、市平均を12ポイント上回った。
家庭学習の定着	地域学校園で共通の家庭学習の時間の目安と家庭学習の手引きを作成し、自主学習ノートと記録カードを用いて家庭学習の取組を進めている。定着月間・強調月間には家庭と連携し生活習慣の振り返りを行っている。	4・5年生ともに「家で、学校の宿題をしている」の項目で肯定的回答率が95%以上となり、県や市の平均を上回った。しかし、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」の項目では、肯定的回答率が6割程度であり、県の平均や市の平均を下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の情報の扱い方に関する事項では、自分の考えと理由を書いたり話したりする問題、算数の思考力に関する問題で県や市の平均正答率を下回った。論理的思考力に課題が見られる。	論理的思考力の育成	算数では筋道を立てて説明する活動、国語では主張の理由や根拠をあげながら話したり書いたりする活動を継続して行う。 学習形態の工夫にとどまらず、発問や問いを工夫することにより思考が深まる学習活動を展開する。 「思考の言語化」は地域学校園での共通課題である。各教科部会の重点項目を確認し、普段の授業で指導していく。